

エルスリー&ピクス

健康管理システム提供

今秋メド 健全な労働環境を確保

エル・スリー・ソリューション(樋口恵一社長、東京都港区)とピクスピクス(仙波修社長、新宿区)は今秋をメドに、運送業界向けに「ドライバー健康管理システム」の提供を開始する。アルコールチェック義務化を機に、ド

ライバーのアルコールチェック数値、睡眠時間、健康状態、薬の服用などを携帯電話で入力・送信し、記録管理するシステムを構築。健全な労働環境の確保と安全運行に役立てる。アルコールチェックの義務付けに伴い、点呼実施時

を活用し、「事業用自動車総合安全プラン2009」に沿ったドライバーの健康管理プログラムの導入を提案する。具体的には、ドライバーが携帯電話やスマートフォン(高性能携帯電話)、タブレットPCから健康情報を

入力。体温計、血圧計などの測定データとともに「見える化」し、ドライバー自身の体調把握や安全運行管理の指標に用いる。

チェック項目は、不調内容や疲労感、前日の運転時間・乗務終了時刻などの勤務情報、飲酒・睡眠など生活情報、健康情報(体温、血圧、脈拍、通院、薬の服用、既往症、治療中のけがや病気)など。

血圧、脈拍については、医療機器や健康管理サービスの接続・相互運用を可能にする「コンティニューア

格」対応の測定デバイスを使えば、手入力でなく自動転送と記録も可能になる。

今月までにプログラムの骨子とコンソーシアムをつくり、来月以降、実証実験を予定。日々の健康状態を定期的に記録することで、ドライバー自身の健康異常の「気づき」を喚起し、入力情報が反映されたグラフやアドバイスを閲覧する機能のほか、健康グラフからの異常や当日の体調不調があった場合に、専門のカウンセラーに相談できるサービスなど総合的なバックア

ップを視野に入れている。システム開発を担当するピクスピクスは、幼稚園児を対象とした健康管理プログラムの開発実績があり、医療用電子カルテのワイズ・ソリューション(館真利社長、仙台市青葉区)ともパイプが太い。エル・スリー・ソリューションは川崎陸送(樋口社長、東京都港区)の情報システム部門から独立し、運送業務に密着したシステム開発・導入ノウハウにより、現場への落とし込みをサポートする。(石井 麻里)